

議会だより



廃校に灯りがともる～但馬醸造「お酢造り」

廃校利用の企業モデル、旧西谷小学校跡地に設立された但馬醸造(株)では、但馬の酢造りが順調に進み全国に向けて出荷されています。

11月21日(土)、22日(日)には市商工会主催による初の「2009養父市産業フェア」が市商工会本所、市役所特設会場を中心に1万人規模で開催され、市内元気企業の製品や技術力が広く内外に紹介されます。

災害復旧事業に4億7千万円

事請負契約変更、財産取得など審議

第36回養父市議会定例会が、9月1日から30日までの30日間の会期で開かれ、32件の議案を審議した。
 主な議案は一般会計補正予算(第3号)、平成20年度各会計決算認定、入湯税課税免除条例改正、八鹿青溪中学校建設工事請負契約変更、宅地造成事業及び学校給食共同調理所建設事業用地取得等で、補正予算には、台風9号による災害関連事業予算が含まれている。また8日(火)、9日(水)の2日間、10名の議員が一般質問を行った。

一般会計補正予算(第3号)は、台風9号による災害復旧関連で4億7141万8千円、起債の繰上償還で3億5248万9千円、子育て応援特別手当等その他で1億5036万9千円、計9億7427万6千円の増額補正である。

台風関連の主な復旧事業は
 ◇明延・若杉・横行・南谷浄水場の取水口修繕及びはさまじ配水管布設工事◇山腹崩壊(大屋町須西、大屋町筏、上野)◇宿南処理場第一ポンプ操作盤修繕◇水防関連時間外手当◇公共土木施設(65件)◇浅野処理区伊豆第3ポンプ操作盤修繕◇堀畑・はさまじ浄化センター◇補助対象分農地(56件)及び農業用施設(41件)
 ◇補助対象外農地(85件)及び農業用施設(53件)◇補助対象分林業施設(25件)◇補助対象

外林業施設(32件)などである。その他の主な補正内容は、○関宮公民館における盗難被害補填金○子育て応援特別手当の支給(平成15年4月2日～平成18年4月1日生まれ、第一子から対象)○森林整備地域活動支援事業による境界確認の拡大○普通林道の橋梁(79基)の耐震強度調査○11月21日、22日開催予定の産業フェア補助金(市商工会主催)○融雪剤散布車購入○都市整備部に統括建築指導員配置○消防本部に簡易型119番受信装置導入○新型インフルエンザ関連時間外手当○小中学校理科・算数(数学)学力アップ設備の更新充実○八鹿青溪中学校建設事業費の増額○全天候運動場グラウンド表層土入替など。

特筆すべきは公債費の繰上償還で、簡保資金の強制繰上償還(南谷医師住宅、関宮町営バス等)約5019万円と任意繰上償還(8件)約2億6929万円がなされている。この簡保資金の任意繰上償還には約3300万円の補償金が必要であるが、通常の償還を続けていった場合の利息金額の合計は5421万4千円となり、その差額約1100万円が節約できる。

議員からは、◇関宮公民館盗難被害額の全額を補填すべき◇新型インフルエンザ関連で妊婦・慢性疾患者への対応、学級閉鎖の判断基準◇八鹿青溪中学校建設工事追加関連で、南門スロープ工事予算漏れについての責任の所在◇公債費繰上償還のメリット◇統括建築指導員配置の必要性◇税条例改正の審議前における入湯税減額補正の妥当性などの質

八鹿青溪中学校

建設工事請負契約変更

鉄筋等建設資材の物価高騰による材料費の差額、太陽光発電設備、法面保護工、敷地拡張工、南門スロープ工等の追加に伴い、1億145万5400円増額し総工事費を19億8850万7850円とする請負契約変更議案が会期中に追加提案された。

〔反対討論〕

○スロープ工事は設計数量にみられていないのに1200万円の追加工事をするものだ。建築工事の常識では図面に明示されている場合それを了承し見積りし入札する。入札時の質疑応答書で業者もスロープの存在を認め質問している。設計士もお見込みの通りと答えている。これは当局のミスであり見積りより抜けているという説明には根拠がな

(賛成12、反対4)

9月定例会 税条例改正、工

疑が出された。

採決では、原案どおり簡易可決することに「異議あり」の発言があり、起立採決の結果、原案可決となった。(賛成14、反対2)

学校給食共同調理所 建設事業用地の取得

宅地造成事業及び学校給食共同調理所建設事業に係る財

産取得議案が提出された。

取得する土地は、小城・上箇地区にまたがる県有地で、以前貯木場として使われていた9266・73㎡(7筆)の土地で、古建物2棟を含んでいる。取得予定価格は1億1223万5千円。

上箇方面に18区画程度の分譲宅地、小城方面に、将来、市内の4給食センターを統合した施設を建設する計画である。原案どおり可決(賛成全員)

い。あつてはならないことだ。

〔賛成討論〕

○当初予算と補正分の工事の組み方の説明不備の問題である。工事自体の数字に問題はない。スロープ工事については設計士も(※)瑕疵を認め、当局も瑕疵問題をクリアし議会報告すると言っている。

○市に責任があるからと

いつてスロープ工事をしないわけにはいかない、必要だ。設計士に反省を促すと共に今後の当局との協議を見守りたい。

○工事を遅らせる議論であつてはならない。将来養父市を支える子どもたちに予定通りに新校舎で学ばせたい。

※瑕疵(かし) 行為・物・権利などに本来あるべき要件や性質が欠けていること。

入湯税 課税免除 賛否同数 異例の議長裁決 可決

養父市入湯税検討委員会の答申を踏まえ、利用料金が1000円以下の市内の温泉施設に入湯する日帰り客に対する入湯税1000円の課税を免除する条例改正議案が提出された。

賛成8名・反対8名の同数となったため、地方自治法の規定による議長裁決となり、議長が原案賛成を表明し、可決された。

〔賛成討論〕

文教民生常任委員会に付託され、審査の結果、委員長の報告は否決であった。報告を受け、原案に対する賛成討論(4名)及び反対討論(4名)が行われた。

○市民の健康増進、医療費の削減、入込み客の増加が見込まれ、地域振興に効果も多い。○もっと早く免除すべきであった。安くして大勢の市民の方に利用してもらいたい。○市内の温泉は地域の活性化

振興に寄与するためのシンボルとして、住民の強い要望で始められた事業だ。入湯税免除は本来の設立意義を追求するものとして据えるべきだ。○入湯税は日帰り温泉客を想定したものでなく、温泉宿泊者に負担を求めたものである。○入湯税免除に代わる財源補填の保障を市長が言明された。重く受け止め、他の論点より優先して議会は判断せねばならない。

二日目に可決されている。○年度当初予算における議会意見「観光交流人口増に向けた予算が十分ではない」ことに応えた減免で評価している。

〔反対討論〕

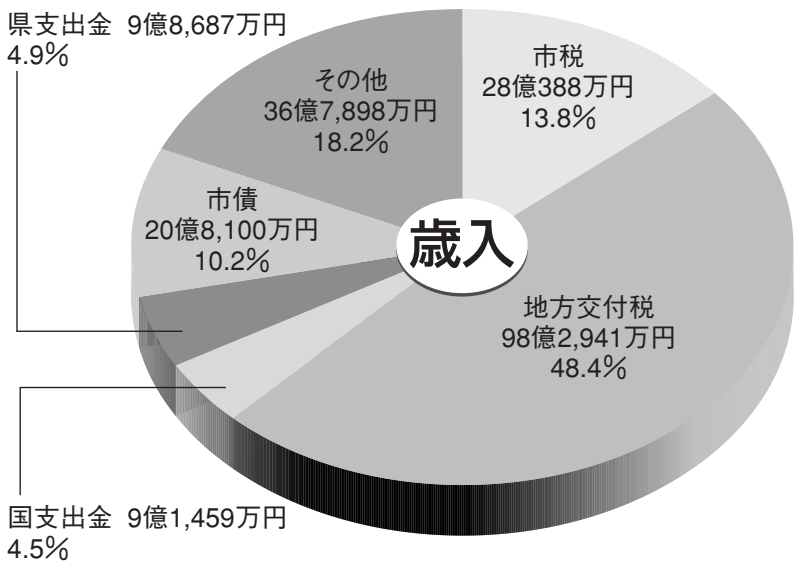
○まちづくり基本条例の理念から逸脱し、提案理由が明確でない大きな問題点がある。○温泉施設だけ税を免除するのは、他の商工業者と比較して極めて不公平である。○提案の経緯、背景、政策立案過程、審議内容が極めて不明解、不十分である。○温泉業者との協議が十分ではない。税免除で温泉利用料1000円値下げを押し付けて負担をかけることにつながる。

○同時提案の一般会計入湯税減額補正予算は、既に本会議

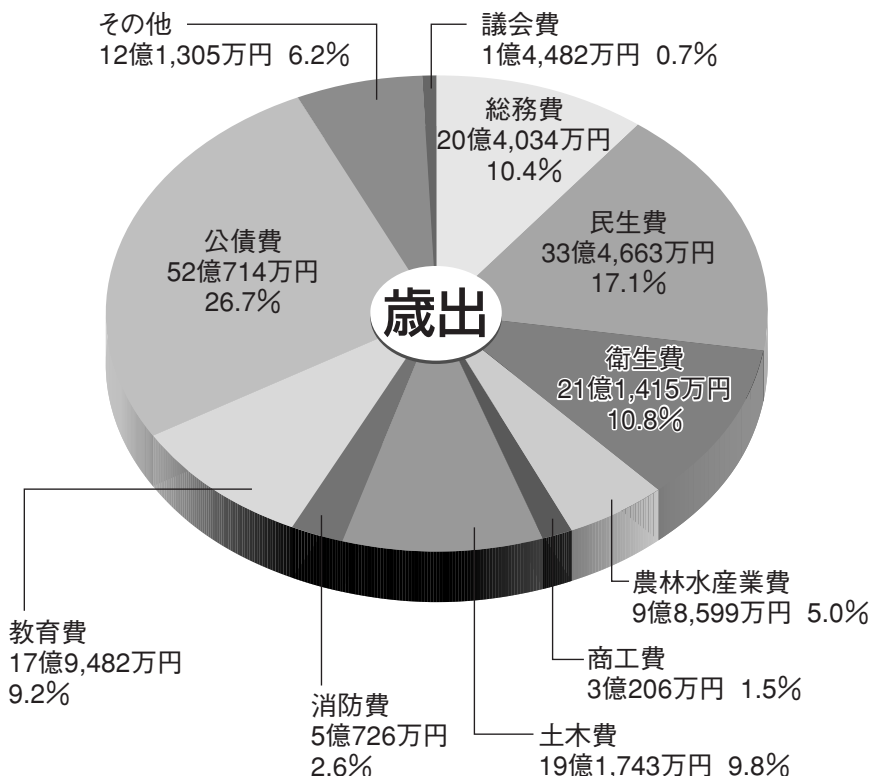
平成20年度決算認定

一般会計

歳入総額 **202億9,472万円**



歳出総額 **195億7,369万円**



決算特別委員会による審査

平成20年度各会計の決算状況を審議する決算特別委員会に8人の議員が選任され、会期中6日間にわたり、付託された一般会計及び12の各特別会計について慎重に審議を行い、すべて認定すべきものとし、最終日に総括的事項、個別的事項の意見を添えて報告した。

委員長	副委員長	委員
西田 恒雄	勝中 久一	西田 恒雄
田村 和久	田村 和久	田村 和久
寺谷 昭徳	寺谷 昭徳	寺谷 昭徳
西澤 敏憲	西澤 敏憲	西澤 敏憲
深谷 巧	深谷 巧	深谷 巧
藤原 憲	藤原 憲	藤原 憲



審議に臨む決算特別委員会

常に前向きな絶ゆまめ努力を

養父市の平成20年度決算は、一般会計、特別会計合わせて実質収支5億2729万円の黒字決算となった。

しかし、市税、分担金及び負担金等の自主財源は少なく、地方交付税や市債等の依存財源に頼る体質は変わっておらず、依然として依存型の厳しい財政状況であることには変わりない。

このような中、当決算が「最小の経費で最大の効果」を上げているか、「住民の福祉向上」に寄与しているか、などに着目し審査を行った。

今、養父市では少子高齢化に伴う限界集落、準限界集落が進み、行財政改革の中で事務事業評価、補助金等の見直し、景気低迷による企業誘致の不振など明るい兆しが見えていない。しかし、常に前向き、絶え間ない努力により養父市の発展と明日を担う若者や市民のために、明るい希望が持てる行政執行を求めるものである。

遊休財産の処分

利用可能な遊休財産については処分手続きを迅速に進め、自主財源の確保に鋭意努められたい。

公債費の繰上償還

公債費負担軽減のため、積極的な繰上償還がなされていることは評価する。今後も財政健全化指標を見極めながら、計画的な償還を。

未収金の収納対策

収納対策室の設置、債権管理条例の制定及び県整理回収チームの派遣受け入れ等の徴収体制が強化されたが、未収金は前年度に比べ5,100万円余り増加し、総額で約6億7,500万円にも達している。(特別会計含む)

これは、市民負担の公平性や行政対応の信頼性確保からみても看過できない事態であり、全市一丸となって更なる収納向上に努められたい。

収入未済額及び徴収率の状況 (単位：円、%)

区分	平成20年度	
	収入未済額	徴収率
市 税	308,112,810	89.9
分担金及び負担金	4,959,846	96.8
使用料及び手数料	20,775,320	96.8
諸 収 入	3,091,856	99.3
一般会計 合計	336,939,832	98.3
国民健康保険税	168,954,318	75.4
後期高齢者医療保険料	455,650	99.8
介護保険料	3,953,450	98.7
住宅新築資金等貸付金	127,283,416	2.0
簡易水道使用料	11,512,030	95.4
簡易水道手数料	—	—
下水道事業費分担金	7,077,510	44.4
下水道施設使用料	19,813,450	94.4
浄化槽手数料	—	—
特別会計 合計	339,049,824	
一般・特別会計 合計	675,989,656	

決算認定の個別的事項

有害鳥獣対策

年を追うごとに農林業被害は深刻さを増している。鳥獣被害防止計画を策定されているが、効果的な被害防止対策及び積極的な駆除を。

学校及び社会教育施設の営繕・改修

学校営繕及び改修については、統合問題もあり、整備計画を立てて実施されたい。多額の経費がかかる各地域のホール・文化会館等の改修は、今後のあり方を検討し計画的に進められたい。

地籍調査の進捗

年度末で対象面積390.85km²のうち完了は14.4km²(進捗率3.7%)である。本事業は県も推奨している。今後は組織作りなど新たな方策も検討され、鋭意進捗を図られたい。

ごみの減量化等

ごみの分別・資源化は、減量化も含め住民や事業所等の協力を得ながら、なお一層の推進を。

水道・簡易水道事業

両事業とも有収率に地域間格差がある。その原因を調査、分析し、安心・安全な水の安定供給を。

下水道事業

接続率の向上努力はあるが、処理区により、接続率の差がある。今後も一層の加入促進を。

氷ノ山国際スキー場事業

恒常的な厳しい経営状態で、一般会計からの借入金残高が2億600万円余りに膨れあがっている。償還計画を策定し、更なる経営改善を。

養父市議会アンケート 寄せられたご意見87のまとめ

去る5月から実施したアンケートには、厳しいご意見が寄せられました。遅くなりましたが、全87件のご意見を集約掲載いたします。アンケート用紙の配布・回収方法については、反省すべきところがたくさんありましたが、今後参考にしてまいります。

養父市議会ホームページには全容を掲示させていただいておりますので、こちらにもご意見をお待ちしています。なお、行政課題のご意見はすべて市長にお届けいたしましたので、本稿からは外したことをご承知願います。

議会活動

◆市議会議員は市民の代表者。

町の様子などもっと知れ。解決できないことは放らず、宿題として考えて。◆市長も議会も奥地に目を向け、市民が安心して楽しく暮らすため頑張れ。私達も協力・応援している。◆得意エリアだけでなく、議員のいない地域にも足を運んで。◆議会側から政策提案する積極性を。◆旧町意識が議員・市民にも残り、5年経過しても一体感がない。昨年選挙も無投票と同じ。政策及び養父市に対する処々の環境について、市発展のための情熱が感じられない。◆本音の話が出来ているか。質問も答弁も出来レースか。◆目標数値・計画を持って議論され、将来に目を向けて。◆市民目線であれば、市政に対してもっと積極的に、徹底した討論と見直しを検討した提案ができるはず。◆市民が大いに“目”を向けるよう、大いに“気”を出して。◆各団体助成金の削減により、市民の協働意識が衰退して活動が鈍化する。◆財政改革を大胆に実行しなければならぬ時期。職員人件費を早急に見直し、夕張の二の舞にならないように。◆財政悪化の原因は誰に責任があるのか、市民に責任はない。当局へのチェックは議員の職務。◆財

源が乏しく何処を見ても八方スリガラス状の難しい時代。こんな時こそ市民の現状を知り、将来に向けて最もよい方向に(議会の基本)市政をチェックし、導いて。若い頭(新しい考え方)の議員に期待する。行政議会とも市民のために存在することを忘れずに。◆「まちづくり基本条例」、「議会基本条例」制定の必要があるのか。首長も議員も地方自治の本旨に沿い、地方分権を含め、地域の住民の幸せを求めることは、戦後50年以上積み重ねてきたこと。文言化して変わるか。本質は言葉・文章でなく行動と実行。具体的に何をすることが求められている。

議員の資質

◆議員個人の資質に問題あり。

当選したら常に学習・行動し、市民の公僕となつて働くべき。とにかく足を運べ。◆何期もしている議員が一度も一般質問しない。辞めてからの金目当て。◆全議員が一般質問を行ない、市民の声を聞き、市民に代わってしっかり意見を述べて。◆発行する文面には品格を。意見だけでなく代替案の提示も。責任を他に押し付けず、自分のこととして考えて。◆あまりにも程度の低い議員と市職員。前が望めない市長答弁。思わず腹が立ち、テレビを切ることは度々。

議会報告会

◆議会報告会は素晴らしい。

◆合併のエゴ・見え・こだわりなど、養父市ビジョンが感じられない一般質問が多い。◆「勉強不足ですが：」「〇〇費の金額を教えてください」などの発言。とんでもない話で時間の浪費。一般質問は議員が調査して当局へ問うモノ。聞き苦しい敬語(市長・部長が)おっしゃいました。◆市民とのパイプが詰まっており、開催して良かった。継続実施を。◆CATVより議員の顔もよく見えてよい。◆質問項目の回答は解決策、議員(議会)としての対応策を聞きたい。◆開催は親しく会話が出来る機会、議会と市民との差を縮める。◆議案を整理し、住民配布の上意見を集約し、これを議題として審議し結論を出しては。

広報課題

◆市議会だよりの問と答。答弁が実現したかどうか結果報告を。

◆「議会だよりの」が情報伝達に唯一の機関であり、増ページで詳しい情報を。◆伝える手段をもっと明確に。◆議会放送の曜日・時間は。各常任委員会の放送も。

定数と報酬

◆税金が給料。◆もっと血の汗を

かけ。◆議員年金が入るから、それまで出るという議員あり。◆議員報酬の削減、議員・職員の教育の実施を。市民の声は税金泥棒。3万人足らずの市に18人の議員は多い。10人くらいでよい。◆議員報酬を日給制にし、定数の更なる削減。14名位としては。◆市議選の立候補者が少ないなら、定員を減らすべき。報酬を当てにしている人もあるようだ。誇りと使命感を持って。

市民の皆さんに信頼される養父市議会へ

市民に信頼され、わかりやすく、開かれた議会を目指すため、9月議会定例会の主要な審議状況を中心に、第2回議会報告会を開催いたします。

- ◆ご都合のよい会場へお出かけください。
- ◆「議会だより」第23号(11/15発行)をお持ち下さい。
- ◆お誘いあわせてご参加下さい。

第2回

議会報告会を開催します



養父公民館

11月20日(金)午後7時30分～

1班

報告議員

西村禮治	水野雅広
田中久一	深澤 巧
森本茂行	田村和也
竹浦昭男	西谷昭徳
議長	北尾行雄

大屋市民センター

11月21日(土)午後7時30分～



八鹿公民館

11月16日(月)午後7時30分～

2班

報告議員

西田雄一	圓山浩平
勝地恒久	藤原敏憲
吉井 稔	瀬原達夫
寺田耕司	安井義隆
議長	北尾行雄

関宮エイドホール

11月17日(火)午後7時30分～



9月議会の報告と市民の皆さんのご質問にお答えします。

一般質問

第36回定例会においての一般質問は、9月8日・9日の2日間にわたり、10人の議員が質問に立ちました。

質問議員の投稿により、600字以内にその内容をまとめましたので概要を掲載します。



藤原 敏憲 議員

災害から地域を守るため、森林整備計画を立てる協議会の設置を

問 近年の台風被害の大きな要因に、山林の管理の問題がある。倒木、間伐材の撤去、植林等を総合的に検討し、森林整備計画を立てる協議会的なもの設置が必要ではないか。

答 これまでの台風被害の教訓を生かし、森林整備と活用をどうしていくのかを検討する協議会の設置を早急に進める。

問 災害に対する市の支援策などの情報が遅く、市民の不満も出ている。5年前の台風23号の教訓が生かされていない。

答 緊急対策についての市民の不満は聞いている。支援策は決めていたが、金額をどうするのかなどが決まっていなかった。そのため情報が遅かった。

たことは反省している。

問 避難場所、避難経路の避難勧告など多くの課題が出てきた。防災計画の見直しが必要ではないか。

答 今回の災害を教訓にして、防災計画の見直しが必要だと考えている。

国保税・介護保険料の市独自の減免制度の充実を

問 国保税・介護保険料の市独自の減免制度を作っているが、国保税ではその対象者は年間わずか20件程度である。市民生活を守る立場からも、実態に見合った減免制度に充実すべきではないか。

答 他の自治体の実態を見ながら検討していく。



西谷 昭徳 議員

市道路線の管理体制について

問 市内には、1200箇所からの市道路線があるが、最近、不備な所が目立つ。どのような管理体制となっているのか。

答 財政事情を考えると十分とはいえない。しかし、従来と同様にシルバー人材センターへ委託したり、軽微な補修・修繕は職員で対応している。

問 近年は異常気象で局地的集中豪雨となり、各地で災害が発生している。水路が詰まったり、亀裂や沈みで不備な所もあり、地域局に専属の職員を配置して管理にあたる必要があると思うが。

答 限られた職員で効率的、効果的に行政を進めている。職員が業務の途中で道路の異常に気がつけば、都市整備部に連絡をとり、対応している。

行政改革により各種団体の育成は

問 平成18年度より行政改革で補助金の削減が続いており、団体の運営が限界にきている。行政改革の見直しを検討する考えはないか。

答 市の財政状況も厳しい。各団体といっしょに検討していきたい。

災害に強いまちづくりについて

問 台風9号で以前と同じような水害となった。二度と起きてはならないといながら再度発生した。関係被害者のことを思うと心が痛む思いである。工事の進捗状況は。

答 平成16年度のような災害を防ぐため、改修工事を進めているが、県の財政事情で少し遅れている。予定の箇所については平成22年度完成を強く要望する。

一般質問



森本 茂行 議員

北近畿豊岡自動車道建設について

問 八鹿インター周辺整備関連の、各地域内生活道路整備を進めているのか。朝倉11号線と朝倉橋の改修を考えているか。

答 朝倉11号線は、インターチェンジ周辺の土地利用構想に含めて朝倉、米里、高柳周辺の土地利用計画を立て、その中で、朝倉11号線の位置づけもしていきたい。朝倉橋の改修は、老朽化した橋台の架け替えを国の補助事業で、平成24から25年に調査策定し、50年経過した橋を調査していく中で、今しばらくは職員が点検していきたい。

養父市総合計画について

問 養父市の基本構想は、平成18年度から27年度の10力年を計画期間としてまちづくりの方向性と活

性化のビジョンを示しているが、基本計画並びに実施計画は、市民に説明されたのか。

答 総合計画を3年サイクルで立てていくが、市としては、財政が厳しい状況の中で単年度での予算を、実施計画として説明している。今回、総合計画の基本計画部分を見直す、社会情勢が大きく変化したので、5年を目途に見直す考えである。

通学路の安全対策について

問 八鹿町の珍坂トンネルが開通して以降、周辺道路の交通量が増加し、小学生たちの通学の安全を心配する声が寄せられているが。

答 正確な交通量は把握していないが、県に対して交通安全対策を要望していきたい。



竹浦 昭男 議員

南但広域ごみ処理施設は本当に安全・安心な施設か

問 南但だより（8月1日発行）では、6種類の排ガス対策について、法令基準より低く自主規制基準値を設けたので、安心な施設であると市民に伝えていく。ダイオキシン対策の自主規制基準を0・05ナノグラムとした根拠は。

答 南但広域ごみ処理施設整備委員会、処理方式検討委員会で、学識経験者も入って他の施設の事例も参考に協議されたものである。大気汚染から守るためにダイオキシンをはじめ、6種類の排ガスの自主規制基準を設けたものである。ダイオキシンは微量でも猛毒である。

問 微量でも猛毒であることは、0・05ナノグラムでも毎日風で飛ばさ

れば、周辺地域に害を及ぼすのではないか。また、炉の中では850度で燃焼したらダイオキシンは分解するが、ハロゲン系の臭素、塩素などは分解せず残る物質である。45mの煙突の出口でダイオキシンが発生する恐れがある。また、大企業が生産する製品の中にダイオキシンを発生させる塩化ビニールがどれだけ含まれているか企業秘密であり、企業が廃棄物として捨てても責任を問わない。ダイオキシンの発生は日本ではごみ焼却場から9割である。

答 基準の100分の1以下の数値で自主基準を定め、排ガスについてもそんなに心配することはないと考えている。



深澤 巧 議員

災害時の要援護者台帳について

問 今回の台風でも自主避難された方は高齢者世帯ばかりだった。養父地区での自主防災や大屋の社協の「防災・福祉マップ」の取組は高く評価されている。これらを先例に、実践的で地域の福祉力と防災力が複合効果を生むような台帳の整備を全市で進めるべきだ。

答 地域に合わせた細やかな行動計画が必要だ。「要援護者台帳」は命にかかわる台帳と認識している。社協等の取組は多様な活用効果があると考えられる。一度研究してみたい。

学童クラブの拡大について

問 市内に8か所の学童クラブがある。若い世代は共働きをしなければ、今の生活と教育費をねん

出できない。お母さんの頑張りを支え、女性の就業機会を増やす事はまちを元気にする。シルバー人材センターと大屋学童の「自然の中でゆったり子育て事業」は、県下で注目を集めている。保護者の要望を分析し、政策拡大を図るべきだ。

答 子育て支援は市の重要な政策だ。若いお母さんの声をよく聞きたい。保育時間の延長、4年生以上の受入れ等、今後の重要な検討課題としたい。

県立八鹿高大屋校の施設について

問 来年に大屋高は廃校になる。市内の最高学府の一つ、県施設が無くなる。県に今後の有効利用を積極的に提案すべきだ。

答 県は来年度に市の意見を聞いて、地元の活性化につながる考えで検討する方針である。

一般質問



瀬原 達夫 議員

養父市の危機管理と対策について

問 新型インフルエンザについて、養父市の現状とワクチン、マスクなどの備品、また、医療機関の受け入れ体制「養父市安全安心マニュアル」は整っているか。

答 ワクチンは、厚生労働省によると、国内での必要量は5400万人分で、年末までに製造可能な数量は1800万人分である。不足分は海外から調達する予定で、接種の時期は確かな情報を得ていない。優先順位は1番が医療従事者、2番目は妊婦、持病のある方。3番目が1歳から就学前の乳幼児。4番目が1歳未満の小児の両親。5番目が小中校生となっているが、正式に決まれば、混乱のないように周知していきたい。

マスクは、一般用が25

万3600枚、小児用が2万4000枚、感染防護服は950枚用意できている。「安全安心マニュアル」は、感染防護資材や、八鹿病院など医療機関との協議もできている。救急対応もできる体制になっている。

問 過日の台風9号の総括と台風対策を問う。

答 平成19年に作成した洪水ハザードマップを参考に地域局で検討しているところであるが、現在兵庫県で行っている土砂災害警戒区域調査なども参考に、今後見直しを行っていく。

問 河川の立木及び河床の土砂撤去はできないか。

答 河川については手つかずの所が多い。今後、土砂の撤去など要望していきたい。



水野 雅広 議員

21年度事業執行について

問 市のホームページは、情報提供媒体として市長はどのように理解しているのか。情報発信が遅いように感じるが有効に活用されているのか。

答 情報発信の観点からは、有効で大事な手法である。現在のホームページについては十分活用していない部分がある。早い情報発信の観点からも体制等も合わせて検討をしていきたい。

問 ふれあいバスの運行時間が変わり、小中学校の通学に影響が出ていることを教育委員会はどのようにとらえているのか

答 問題点は、学校を通じて聞いている。特に長期休暇時や臨時登校日などに学校・業者・運転手との連携に不備があったようだ。運転事業者への指導も合わせて、取り組

「養父市公共用地芝生化構想」について

問 環境対策。地域コミュニティのツールの一つとして、学校・廃校跡地・保育園など公共用地の芝生化に取り組みはないか。

答 温暖化対策の一環としては、興味を持っていく。鳥取方式など比較的に安価で芝生化を進めている自治体もあり、状況を研究していきたい。

問 みどり税、財団補助金、安全と安心の学校づくり交付金などで財源を確保し、地域団体と管理について協議をし、モデル事業として次年度に取組んでみては。

答 芝生化は管理が一番の問題である。いろんな観点から調査、研究していきたい。



勝地 恒久 議員

ケーブルテレビの地デジ化対応を問う

問 平成23年の7月24日でアナログ放送が終了し地デジへ移行するが、CATV加入者や登録工事業者に十分な説明がなされていない。サービスが大幅に縮小されることや、BS・CS放送を観るにはパラボナアンテナ工事が必要になること等の周知説明をどう考えているのか。

答 家庭には複数台のテレビがあり地デジ対応テレビの普及率が低い状況を踏まえ、7月24日以降もCATVについてはデジアナ変換で3～5年間はアナログ放送で見られるような新聞報道もあるが国の政権交代でまだ方針がはっきり示されていない。現段階で説明を行い地デジ対応テレビに買い替えられた場合、期限が延びると不満が生じるこ

ととなる。混乱を回避するために未だ説明をしていない。

問 楽しみのCATVを見ていただくために、70歳以上独居高齢者に加え金や利用料の半額免除の施策を行なってきた。制度適用の高齢加入者は609人おられる。まだ使

えるテレビが国策で否応なしに見えなくなる。テレビを買い替えずに現テレビで見続けたいと願う高齢加入者に対し、デジタル・チューナー購入費用の半額助成制度を設けることを提案する。家にいながら情報を得て社会参加していく手助けをすべきだ。

答 国のデジタル化やCATV共聴組織に対する緩和策を見極めながら、今後の検討課題とさせていただきます。

一般質問



西村 禮治 議員

事務事業評価と地域福祉(社協連携)

問 本年度の事務事業評価の取組みは。

答 補助金審査は事務事業評価の中で実施。8月中旬から市民評価に入り、11月中旬には評価結果が出る。昨年の審査では、各団体代表者から直接意見を聞いた。市民評価で職員は「財政に対する危機感がない」等、致命的なお叱りを受けた。本年度は事前研修を行い、改善が図られてきたと思う。

言わざるを得ないが、市民の幅広い協力に支えられた福祉活動が根幹をなし、全体的にはサービス低下と考えていない。②社協とは市の福祉推進上、車の両輪であるが、従来どおりの補助金や委託料を受けた事業実施はあり得ない。社協補助金、委託料はこの1年で51%の減額。社協は基金を取り崩して事業実施したが、いつまでも続けられない。実施事業等は、地域社会を維持する上で欠かせない取組みで、行政が実施すると莫大な経費・労力が必要。役割分担等十分協議して福祉向上をめざしたい。③高齢者福祉、子育て支援は市にとって重要施策。その一端を担うのが社協であり、必要な事業に予算を配分し、市民生活の安定を図る。



西田 雄一 議員

原因は毎回同じ

問 兵庫東西・北部豪雨による浸水被害は、養父市最上流部の堀畑地区、最下流部の伊佐・宿南地区とも円山川増水によるものであった。被害地区からは「度重なる脅威は、まさに人災である」といった意見もでてきている。どう考えているのか。

答 堀畑・伊佐地区の被害は、支川流末部の未改修に起因する本流の逆流によるものである。それぞれ県土木に要望はしているが、対応されていない。対応されるまで水位計、警報器の設置や地元の方皆さん、期成同盟会等と協議しながら強く要望していきたい。過去の浸水の構図は変わっていないといわれる宿南については全くそのとおりである。三谷川の改修工事は、より一層その進捗を求めていきたい。

最良・最適な通学方法

問 来年度から八鹿、青溪中学校が統合する。それに伴う生徒の通学方法手段だが、かわいい子どもたちを安心して通学させてやりたい親御さんの切なる思いを真摯に受け止め、協議されたい。

答 安全な通学路の確保問題は、地元の関心の深いところだと思う。財源をはじめ、諸事情から定期バス、スクールバス併用など、通学に関する条例に準じた通学を考えている。今後、PTCA、学校等との協議を重ね、11月にはバスの運行計画を作成し、通学方法の届け出をしていただき、決定次第、各小学校区への説明をしていく予定である。

定例会のお知らせ

12月定例会は、12月4日(金)に開会の予定です。

- ◆第1日目 12月4日(金)
- ◆第2日目 12月10日(木)
- ◆第3日目 12月11日(金)
- ◆第4日目 12月18日(金)



※本会議は午前9時30分開会です。

本会議を傍聴しませんか

議場で本会議を傍聴することができます。議会活動を身近に感じていただけます。ぜひ一度お越しください。

先着順で30名までどなたでも傍聴できます。本会議の様子は、翌々日(午前11時と午後6時からの2回)にケーブルテレビで録画放映をしています。傍聴にお越しになれない方はご覧ください。

政策総務常任委員会報告

政策総務常任委員会は、7月28日(火)、8月7日(金)の2日間、ケーブルテレビ施設及び消防・防災について調査を行った。

ケーブルテレビの施設について

アナログ放送が終了する2011年7月24日まで、あと1年11カ月を残すのみとなっていることから、養父市ケーブルテレビジョン施設のデジタル放送移行に向けた諸課題について調査を行った。

①現在のサービスが、デジタル化になると地上波と自主放送のみにサービス縮小となること、リクエストチャンネル・CS放送・BS放送のサービスが廃止されること等を分かり易くケーブルテレビ加入者に説明すべきである。その際には、引き続きCS放送・BS放送を観る場合、個人で準備すべき内容についても併せて説明されたい。

②テレビ大阪、京都放送(KBS京都)については、デジタル化以降受信が出来なくなるが、サービス継続に向けて

関係方面への協力依頼に鋭意努力されたい。

③養父市情報センター運営費は、年間約2億1900万円(平成21年度予算)にもほり、第二次養父市行政改革大綱では平成25年度に指定管理者制度へ移行の計画である。インターネットをはじめとする情報通信技術の進展は日々著しいものがあり、今後も通信技術は革新し続け、その恩恵を受けられる豊かなIT社会が築かれようとしている。

このような中にあるには、施設運営の広域化、さらに議論を進めてデジタル化に伴う完全民営化をも視野に入れた検討を早急に進められることを提言する。

消防・防災について

9月の台風シーズンを前にして、フェニックス防災システム、兵庫県が発令する水防指令及び土砂災害警戒情報並びに職員初動マニュアルによる出動体制等について調査を行った。

さらに消防本部、同大屋出張所にも出向き、救助工作車、高規格救急自動車の装備について説明を受けた。

①災害の規模や種類に応じて、安全かつ適切な対応が受けら

れる避難所へ市民が避難することが求められる。一次避難所、二次避難所、福祉避難所、帰宅困難者用避難所など指定の避難所を案内する標識看板を設置し、平常時から周知しておくべきである。

②防災行政無線を地域別にみると八鹿地域に車積載28台・携帯用9台、養父地域に車積載21台・携帯用14台、大屋地域に車積載10台・携帯用32台、関宮地域に車積載6台・携帯用12台という整備状況で、合併前の体制を踏襲している。近年は携帯電話も頻繁に利用される傾向にあるが、瞬時に情報が一斉共有できない欠点がある。2年後の免許更新時にあわせ、均衡ある無線配備に鋭意努められたい。

③要援護者台帳は整備されているが、高齢弱者の希望者のみである。在宅での人工透析患者、酸素吸入患者については定期的な医療提供が欠かさない要援護者であるが、災害時の援護体制が検討されていない。関係医療機関とも協議



万全の機材整備と体制を



救急自動車の装備について説明を受ける委員

のうえ検討されたい。

④消防本部においては、全国的に小規模組織は出動体制、保有車両、組織管理面で限界が指摘され、その対応策として広域化することで充実強化を図る動きがあり、養父市もその動向を見極めていく状態である。

行政の最大使命は、地域で安心安全に暮らせる環境を市民に保障することにある。今後も消防、防災については、万全の機材整備と体制を計画的に保持されたい。

文教民生常任委員会報告

文教民生常任委員会は、8月3日(月)「八鹿青溪中学校建設事業の進捗状況」、「大屋中学校の耐震、改修計画」、「つるぎが丘公園(プール)の現状」について調査を行った。

統合中学校建設の進捗

平成22年4月開校予定の八鹿青溪中学校建設状況について、校舎などの現地調査を行った。

調査段階での工事進捗率は67%で、8月4日に消防検査の後、仮使用のため兵庫県による建築検査と市の検査を受け、17日から3日間、移動する備品及び購入備品の搬入を行なった。また、21日には生



現地調査を行う委員

【写真上】八鹿青溪中学校屋内体育館

【写真下】大屋中学校



徒・PTAの協力で引越し作業を行ない、28日から八鹿中学校の生徒が新校舎に仮入校した。

9月から現校舎と屋内体育館の解体工事に着手し、引続き駐車場の整備とグラウンドの造成工事が来春まで続く。前回(1月)調査でも指摘していた校舎棟及び屋内体育館の天井高について、ワークスペースを広く取ってあるにも関わらず、若干の圧迫感を感じ

大屋中学校の第二次耐震診断及び補強計画について、現地調査を行なった。

対象となるのは管理教室棟、特別教室棟、渡り廊下、屋内運動場、倉庫棟など。管理教室棟と特別教室棟は正面と裏面にブレース(筋交い)を設置。渡り廊下は屋根の補強と1階開口部の閉鎖、梁の補強を行い、屋内運動場は全棟の実施設計を行うものである。

学校施設は、児童生徒が1日の大半を過ごす施設であり、

大屋中の耐震、改修調査

じざるを得ないものだった。3階テラスは吹き抜けで、冬場等の施設管理について関係者で十分な協議を行ない、適正な維持管理を継続できるように配慮する必要がある。



つるぎが丘公園「温水プール」を調査

つるぎが丘公園「温水プール」の現状

指定管理者施設である「よるか温水プール」は、オープンして19年目を迎えるが、昨年度、内部の補修を終えたところである。昨年度の利用者は子ども2239人、大人6140人。このうち大人80人、子ども400人が会員登録している。

災害発生時には地域住民の応急避難場所としての役割があり、早急な工事着工が待たれている。

市の健康づくりプログラムに組み込まれたこともあり、年配者などの利用が見られる。また、放課後は母親と幼児保育園児の利用もある。

プール南側には健康と体力増進、介護予防のスポーツコミュニティ施設(仮称)健康支援センターの併設計画が進み、今年度中の完成が待たれている。

この施設は指定管理者により運営されているが、担当部局との密接な協議で、市民の健康づくりへの役割が期待されている。

産業環境常任委員会報告

産業環境常任委員会は、7月29日(水)、市内の企業を訪問し、経営実態と雇用状況について各企業から説明を受け、調査を行った。

訪問企業

- ・(株)NEOMAX近畿
- ・大屋町工業振興協同組合
- ・長岡金属工業(株)八鹿工場
- ・日本精鉱(株)中瀬製錬所

経営状況について

世界的な金融危機や景気の悪化などによる不況の影響で、各企業とも今年に入ってから最も盛期と比較して5割〜6割程度の売り上げであり、依然として厳しい状況が続いている。今後の経営についても不安の残る状況であり、新規取引先の開拓、新製品の開発などにも力を入れているようである。



(株)NEOMAX近畿

雇用状況について

派遣労働者の解雇、一時休業などにより雇用状況は悪化している。地元企業として雇用の確保は維持していくという中で、国の「中小企業緊急雇用安定助成金」を活用している企業もあった。

また、その助成を受けた企業を対象に、市では「養父市中小企業雇用維持支援補助金」として国の助成金額の10%を助成しており、企業としては助かっているとのことであった。



大屋町工業振興協同組合

まとめ

各企業の経営状況の説明では「不況の底は打った」とのこと、最悪の状況からは幾分改善しているようであったが、依然として厳しい状況が続いている。

訪問した企業はどれも経営が苦しい状況でありながら、従業員の雇用確保に対しても精一杯の努力をされている。市では、新規の企業誘致の方針が出されているが、既存

の企業に対する支援を大事にし、育成することが必要である。行政も商工会と連携し、さらに企業支援等に力を入れるべきである。

日本精鉱(株)中瀬製錬所



長岡金属工業(株)八鹿工場

議会基本条例調査特別委員会報告

来年3月の制定を目指し、現在、特別委員会において精力的に調査活動を行っている。先進地である伊賀市の視察をもとに、8月中旬に各種団体約100名の皆さんと、基本条例についての意見交換会を開催した。

意見交換会では、条例の目的などを説明した後、参加していただいた皆さんから、具体的に「開かれた議会」についての意見・要望などを聞いた。「いくら条例を作っても議会自体が変わらないと意味がない」、「形式だけに終わらないで」など、報告会では聞けなかった意見が多くあった。

現在、条文の作成に入っており、意見交換会で出された意見、市民アンケートの意見などをできる限り反映し、市民の皆さんと作る「生きた条例」になるよう特別委員会で協議している。

今後、条例の素案を12月までにまとめ上げ、市民フォーラム、パブリックコメント、参考人意見聴取などを行い、細部にわたる検討を重ね、「開かれた議会」を目指すべく、議会基本条例調査特別委員会の調査活動を進めていく。



各種団体と意見交換会を開催

意見交換会開催団体

- ・ 養父市PTA連絡協議会
- ・ 南但青年会議所
- ・ 養父市社会福祉協議会
- ・ 八鹿ライオンズクラブ
- ・ 大屋ライオンズクラブ
- ・ 養父市女性未来会議
- ・ 養父市商工会
- ・ 養父市老人クラブ連合会

(開催順)

公立八鹿病院組合議会報告

公立八鹿病院組合議会定例会は、7月24日(金)八鹿病院で開会し、病院の現状報告のあと、2つの案件を審議した。

池口管理者報告

4月以降、医師の引上げでご不便とご心配をかけたが、一方で内科医、麻酔科医の増員、児童精神科の開設等強化できた部分もある。

宮野院長報告

神戸大学大学院生の調査で、八鹿病院は①PR不足、②病院と地域住民とのコミュニケーションの不足が指摘された。地域に向いて現状説明し、理解を深めてもらう機会を増やしている。

小児科は9月1日から、11月からは脳外科診療も再開する。整形外科は来年3月までの引き上げ通告があり、医師確保が急務。豊岡病院の耳鼻科が9月に休診し、当院に救急手術集中が予想される。医師不足はあるが、確保に明るい兆しがある。

石田村岡病院長報告

医師3名の総合診療科体制。内科、外科関係なくプライマリケアという初期診療の体制で、重症、高度医療対象者は八鹿・豊岡病院へ依頼。経営状況も悪化し、職員の削減のほか診療収入アップに努力。

近藤福祉センター長報告

老健施設の6月までの利用状況は、当初計画と前年対比で上回っている。

通所は新型インフルエンザで休業し、約220万円の収入減になった。

介護報酬のプラス3%改定で介護職員の処遇改善が図れた。介護が雇用の場としての成長を期し、処遇改善交付金制度を積極的に活用したい。

濱看護学校長報告

18年目を迎えたが、兵庫県からの補助金が毎年減額されている。看護大学が増えて専門学校には生徒が集まりにくい現状である。当院に卒業生を集約するため、本年から入学生は構成市町を優先的に取るように配慮していきたい。

【議案】

認定第1号「平成20年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算認定」

地方公営企業法第30条第4項の規定により、平成20年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算について認定に付するもので、決算特別委員会を設置し、委員長に藤原敏憲議員、副委員長に西坂秀美議員を選任後、委員会に付託した。

議案第5号「公立八鹿病院組合病院事業の設置等に関する条例の一部改正」
公立八鹿病院看護専門学校は、授業料等の金額を変更するため、条例を改正するもの。

質疑、反対討論を経て、起立採決の結果原案可決した。



八鹿町浅間
小松原貴美子

いつも「議会だより」楽しみに拝読しております。来春から、いよいよ「八鹿青溪中学校」の開校です。祖父母の年代の方々から、青溪中学校建設当時の想いや苦労話、また初代校長であつた渡辺武一先生の子どもに對する深い愛情、卒業生一人ひとりの人生と向き合い、分岐点となる指導を受けたということ等をお聞きしますと、これから10年、20年の後、中学校の統合が養父市にとって最良の道だったのだと思える学校の運営、教育の礎を築いていただきたいと切に希望いたします。



八木谷
川濱 歌子

最近、雨が降れば集中豪雨となり、短時間で川の水位が上昇します。この現象は、山の荒廃による保水能力の低下が要因の一つともいわれています。八木谷区は山に囲まれ、区を中心に蛇行しながら流れる八木谷川の川幅も狭く、河川の整備がなされていない危険な箇所も多くあり、また険しい山は土砂災害危険箇所になっていて、雨が降るたびに洪水、山腹崩壊等、自然の脅威にさらされ、常に不安を抱いております。どうか、災害を未然に防ぐよう、抜本的な対策をとっていただき、安全に安心して生活できますようによくお願いします。

市民の窓



上 箇
藤原まり子

地方自治体が財政赤字を解消するためには、税収入を飛躍的に増やすか、支出を大幅に減らすかの二つしかありません。しかし、税収を飛躍的に増やすということは、過疎化の進む養父市にとって容易ではありません。では、支出を減らすにはどうすればよいか？「身の程の予算」を作ればいいのではないのでしょうか。家庭でも収入から支出計画を立て、当然赤字を出さないようにやりくりします。市の予算を決定するのは議員です。赤字を増やし続けるか、立ち直らせていくか、議員の資質にかかっています。議員は少数精鋭でいいと思います。



大屋町加保
林崎 麻理

「自転車一周してきたけど誰もおらんかったから帰ってきた。」がっかりした声に秘密の場所のことを思い出した。そこに行けば必ず誰かがいて、指導員の方が優しく迎えてくださるから一人でも平気で、安心して行けた。卓球や輪投げ、折り紙に手芸：友達を求めて来ても、何十倍にも楽しい気分になって帰ってこれた。夜空の月や星の明るさ、蛍の和らかな光に感動したり、田畑の成長を目の当たりにできる楽しさ：恵まれた自然の財産の中で本物に触れ、発見や感動する心を育てほしい。地域の方々との交流の中で成長し、学んでほしいと願っています。

編集後記

防虫対策のため、オレンジ色の彩光下での作業風景。様変わった議会だよりの表紙になりました。この広報は7人の議員で編集しています。表紙写真もその都度、議員が出向いて撮影しています。

この一年間、4回の広報を発行しました。今回の広報特別委員会の任期もあと1年です。住民と地域での息づかいを感じとり、市民に議会の審議内容をしつかり伝えていく、そんな議会広報紙にしていきたい。表紙写真や各議員の記事原稿の中に、その想いをくみ取っていただければと思っています。2回目の議会報告会を開催します。議会の広報広聴についてもご意見お寄せください。